



大ヶ谷戸小田中町会 発行責任者 志村 勝

年頭のご挨拶



町会長 志村 勝

新年明けまして おめでとうございませう
皆さまにとって新しい年が、健やかで最良の年となりますよう心からお祈り申し上げます。

日ごろより、町会の諸行事にご協力いただき誠にありがとうございます。本年も皆さまと一緒頑張ります。またと二層に頑張ります。すのでなご指導ご支援のほど、よろしくお祈り申し上げます。

さて、観測史上最大規模の東日本大震災の発生から9カ月が過ぎました。いまだ、復興作業が思うように進まない現状があり、被災された皆さまのご苦勞を思うと心が痛みます。

笑顔輝く元気な街に!

本年はさらに①笑顔輝く安心安全の街・小田中町会 ②未来を担う子供たちの育成 ③地域の先輩に安心して住んでいただける街づくりを目標に、町会の皆さまと一緒に歩みを進めてまいりたいと思っております。

現在、相模湾・駿河湾を震源とする地震、南関東の直下型の地震などの発生が危惧されています。このようなか、昨年11月6日、市消防局と地元消防団のご協力をいただき、

大震災に備え防災訓練

大震災に備えて災害時の負傷者や要援護者の避難支援を目的に、当町会の防災訓練が、11月6日、市立聾学校校庭で約120人が参加して実施されました。

前日から降り続いてきた雨も明け方にはすっきりあがり、予定通り午前9時、原増男防犯部長の進行で防災訓練を開始しました。

冒頭、志村町会長が、「災害時には、まず自分の命は自分で守る

。そのうえで、高齢者や負傷者など自力で避難することができない方には、近隣同士で支えあい、避難支援していきましょう」と開会挨拶。

次いで、中原消防署・消防司令長の石井博道氏が、東日本大震災、北九州地震等の教訓を通して、「大震災の備えに万全を期すためにも防災訓練を愚直に続けてほしい。毎年、たとえ同じ訓練であっても、その繰り返しの中で体験した訓練が、「いざ!」という時に、大きな力となつて役立つのです」と訴えました。

負傷者の避難支援など体験

《心肺蘇生訓練》

「もしもし大丈夫ですか?」 マネキン人形と救命・救急AED(自動体外式除細動器)を使用し、災害時に突然、心臓や呼吸が停止した人の救出法を学びました。



《結核訓練》

「意外と難しいわね」見よう見まねで、結びの王様と呼ばれる「もやい結び」に挑戦し、四苦八苦。高いところからロープを降ろす時に降りる時などの命綱として最適。



《煙体訓練》

「ああ、苦しい!」災害時の火災に備え煙体訓練に挑戦。ハウスの中は視界ゼロ。暗中模索しながらやっと脱出。ホッとひと安心。



《119番通報訓練》

「火事です!」勇んで訓練に挑む子どもにも、指導員が、「落ち着いて、正確に……」と優しく丁寧にアドバイスするほほえましい光景も。



《器具取り扱い訓練》

中原消防署特別救助隊の隊員がエンジンカッターとチェーンソーを使用して、救出・救助活動の際の障害物(木材・鉄パイプ等)の切断法を実演。見事な技に全員、クギづけ。



《初期消火訓練》

「火事だ! 火事だ!」。周囲に火事を知らせ、あわてずに消火器を準備。ピンを抜き、ノズルを火元に向け、レバーを握って全員、消剤を見事に放出!思わず笑みが……。



《小型ポンプ操法》

昨年度の中原消防団消防大会で総合優勝に輝いた中原消防団大戸分団。同分団の中核を担う大ヶ谷戸班が、小型ポンプ操法を披露。規律正しい操法に、参加者も拍手喝采。



防災訓練に参加して

意外と難しい「もやい結び」 三部 大河戸美雄 「もやい結び」は、簡単そうに見えましたが、なかなか結ばなくて大変苦勞しました。他の訓練も、すべて初挑戦だったので、いい経験になりました。ただ、AEDだけは時間の関係で実体験ができなくて残念でした。地域のコミュニケーションを図る好機ともなり、大変有益な防災訓練でした。

防災意識の大切さ痛感 三部 高島 博則 AEDコーナーでは、心肺蘇生のための気道確保・人口呼吸・心臓マッサージのやり方などを学び、貴重な経験を積ませていただきました。毛布と二本のポールを利用して担架をつくることも学びましたが、実際の現場で、身近にポールがないと、せっかく受けた訓練も役に立たない、とわが家の防災への備えの大切さを、改めて痛感させられました。

人口呼吸法など学ぶ 一部 斉藤千代子 もやい結び、担架の作製・搬送訓練、煙体訓練、初期消火訓練など、楽しく体験させていただきました。

なかでも、心臓マッサージや人口呼吸の仕方などの訓練は、とてもいい勉強になりました。南関東直下型地震など、いつ到来するかわからないだけに、常日ごろからの防災の心構えと併せて、防災訓練の大切さ、必要性を真剣に考えさせられました。



防犯部長 原 増男

高齢者や障害者など災害弱者・要援護者をどう避難支援

防災意識を高める好機に

高年齢者や障害者など災害弱者・要援護者をどう避難支援

そこで、応急担架の作製・搬出を中心に、防災全般の訓練も実施することにしました。

さつそく、中原消防署、地元消防団大戸分団大ヶ谷戸班の協力を依頼しました。当日の訓練は、参加者を5班に分けて、煙体訓練もや

自分の命は自分で守る、向こう三軒両隣で助け合う——これは安全・安心の街づくりの原点です。今回の訓練を通じて防災意識を高める好機になれば幸いです。最後に、地元消防団には、全コーナーに担当者をつけてご指導いただき心より感謝する次第です。

マイタウン ハイライト!



ゴミの分別排出の徹底を

昨年10月3日、川崎市中原生活環境事業所と当町会の協同による「※3R推進デー」に伴う朝だちキャンペーンが、上小田中3丁目26番地付近で実施されました。(写真下)これは、家庭から発生するご

みの量や質を把握・検証し、ごみの減量化施策に反映させることを目的に実施されたものです。
【参加者】
 志村町会長ほか4名

秋まつり ぼくカッコいいでしょう



町のあちこちから聞こえてくる太鼓の音、みこしのかけ声が響きわたり、猛暑の日でしたが、こちよよい日となりました。



盆おどり
裏方さん、ありがとうございます!

昨年も、やぐらの組立・提灯の配線・夜店の準備など多くの人たちのお蔭で安全で楽しいイベントが開催されました。(7月30日、大谷戸小学校)



ガーデニング

真剣なまなざし!

色とりどりの花が競うように咲き誇る——秋晴れの11月16日、グリーンアドバイザー神奈川理事を務める園芸家・濱中静子

先生のご指導でシクラメンやストックなど冬の花々で寄せ植えをしました。午前、午後の部に分かれ、総勢41名が参加し、器用な手さばぎで素晴らしい作品が出来上がりました。(中原園芸)



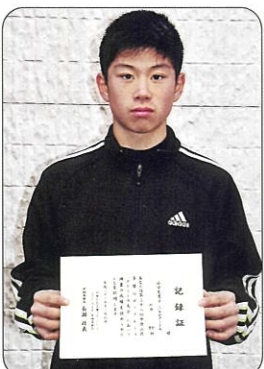
ロードレース

マイペース大会で優勝!

第38回中原区民多摩川ロードレース「マイペース大会」の小学生男子の部(3km)に

(12月4日)

出場した子ども会野球部の関屋豪晃君(6年)が、366名中第1位(記録証)に輝きました。



ラジオ体操

早起きの子もたち

は〜い! すがすがしい朝の空気を胸いっぱいすってきょうも明るく元気な楽しい一日でありますように!

(7月23日、川崎市立聾学校)



グランドゴルフ

決めるぞ! 一発

思いっきり飛ばしストレス発散、心身ともにすっきり、さわやかな時を過ごしました。(10月23日、川崎市立聾学校)



わが町のきりり

相談役
村上泉さん



水田と緑豊かな昭和30年代の小田中を語る口調は、温かななかにも鋭さが光る。病氣療養中とはいえ、人生の風雪を乗り越え自信に満ちた風格とても87歳には見えない。

大正13年、東京・新宿生まれ。戦前・戦中は空襲を避けるため田園調布に移住していた。このころ、モーターづくりや自動車の修理技術を身につけたが、なかなか仕事がなく、辛い日々も経験。それでも、「その道に徹すれば、必ず活路は開ける」

との固い信念を貫き通した。昭和36年、国家資格を取得して、上小田中に自動車修理工場を開業。

黄綬褒章に輝く才腕

「当時、現在の南武沿線道路は、泥道で雨が降ればぬかるみ、晴れが続けば土埃が舞うという具合……。最初は知人もいないため、お客さんもなく、そんな折、修理の技術を頼って田園調布から客が来てくれた時は、本当にうれしかったね。今でも感謝しているよ。」

その後、事業も軌道に乗り、神奈川県小型自動車整備振興会川崎第2支部長、川崎支部長の要職を歴任。その功績に對して、平成元年に運輸大臣表彰を受ける。同8年、多年にわたる自動車整備事業に優れた技術を発揮し、同業界の発展に尽くしたことが高く評価され黄綬褒章に輝いた。



編集後記

★「苦に徹すれば珠と成る」(吉川英治)——戦前戦後の人生の風雪を乗り越えてきた村上相談役の人格に触れ、その思いを深く痛感。
 ★「備えあれば憂いなし」——突然の災害発生時には、とかく慌てふためいたり、パニ

ツクに陥りがちなもの。「方」に備え、恒例の防災訓練には、ぜひ積極的な参加を!
 ★「全体のバランスとカラーが寄せ植えのポイント」と濱中静子先生。的確なアドバイスを受け、一人一人が試行錯誤し完成。皆さんのうれしそうな笑顔が印象的でした。

